

Partner

[パートナー]

Vol.02
2021.SEP

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —

・泌尿器科・

松木 克之

尿路結石の手術療法



・整形外科・

辻 将明

脊椎圧迫骨折に対する
経皮的椎体形成術



KOYAMA MEMORIAL HOSPITAL

紹介患者様の受診方法について

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しています。地域医療連携室では、他の医療機関からの紹介患者様の対応、または患者様のお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。

当院は、外来患者様が多く、待ち時間が長くなるため、紹介状持参患者様については、特に事前予約をお勧めしています。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、
地域医療連携室にて事前予約をお取りします。

「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を
事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》
TEL.0299-85-1133 FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、
翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

紹介状持参患者様 予約取得フロー

- 1 医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～11:00

TEL.0299-85-1133 (地域医療連携室直通)
- 2 受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。
FAX.0299-88-2211 (地域医療連携室直通)
※ FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。
- 3 ・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡をいたします。
 ・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。
(できる限り15分以内にご連絡します)
※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。
- 4 予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、
11番「紹介状窓口」にご来院していただきますよう、
 ご案内をお願いいたします。

各科緊急連絡先

- 緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。
- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
 - ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
 - ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土/8:00～20:00 迄) 日・祝を除く
 - ・放射線科 0299-85-1173 (画像検査科直通)*
 - ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)*
- ※月～金/9:00～16:00、土/9:00～11:00 日・祝を除く





・整形外科・

辻 将明

日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

ピックアップドクター

Pick up Dr.



各診療科の医師が専門分野を伝える

・泌尿器科・

松木 克之

尿路結石センター長
日本泌尿器科学会泌尿器専門医・指導医



● 尿路結石の手術療法

① 体外衝撃波による

砕石療法 (ESWL) と

経尿道的砕石療法 (TUL)

尿路結石の手術は ESWL と TUL の方法で砕石治療を行っております。 ESWL は腎臓と尿管上部の結石を対象とします。注射薬による麻酔下に X 線透視で位置確認しつつ腰部に体外より圧着した衝撃波発生装置からの衝撃波で結石を砕石します。

TUL は尿路 (腎臓・尿管・膀胱・尿道) すべての結石を対象とします。下半身麻酔ないし全身麻酔下に内視鏡を尿道から逆行性に尿路内に挿入して結石を直接確認して主にレーザーで結石を砕石します。

結石の大きさ・位置、併存疾患の有無等によって ESWL・TUL と

ちらにするか選択します。

双方とも手術当日入院し、手術後 1 日経過観察して重篤な合併症がないことを確認後、翌日退院としております。

② 術後の管理は

ESWL・TUL とともに主な術後合併症は血尿・細菌感染・碎石片による尿路閉塞です。

入院中は尿の性状・体温・結石関連疼痛を中心に経過観察し、入院中退院後通じて十分な水分摂取と一定期間抗菌剤内服をしていただきます。

また手術後尿路閉塞対策として TUL は腎尿管結石全例に (ESWL は稀ですが結石が大きな場合に) 尿の流れを保つステントという管を尿管内に留置します。これは退院後 2

高齢化社会に伴い骨粗鬆症が増加しており、その患者数は日本で 1300 万人に達するといわれています。

骨粗鬆症によって起きる脊椎の骨折は最も頻度の高い骨折であり、骨折直後の腰痛や、骨折部の不安定による慢性的な腰背部痛があり、生活の質や日常生活動作が著しく制限されます。骨折の治療法における第一選択は鎮痛薬の投与を行い、コルセットを使用し加療を行っていきます。しかし、保存加療を行っても、腰背痛が取れない患者様もいます。

当院ではそうした患者様に経皮的椎体形成術を行っており、全身麻酔で骨折した背骨にセメントを注入することにより、脊椎の不安定性を改善し、腰痛を早期に改善することが可能です。手術時間も 30 分程度で

あり、約 5mm の傷が 2 か所と非常に体に対する負担は少ないです。

③ 術後の経過は

創部の疼痛はほとんどなく、コルセットを使用することで術後翌日から起立歩行訓練が開始できます。術後早期にリハビリテーションを継続することで、姿勢改善や生活機能向上を図ることにより、自宅への早期退院を目指しております。

④ 治療後の当院への通院について

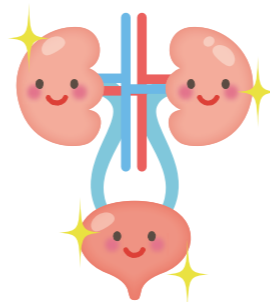
退院後は外来で骨粗鬆症の加療をすることにより、次回の脊椎の骨折や股関節の骨折を防止することが可能です。当院では毎週水曜に杏林大

週間程度を目安として外来で内視鏡を用いて抜去します。

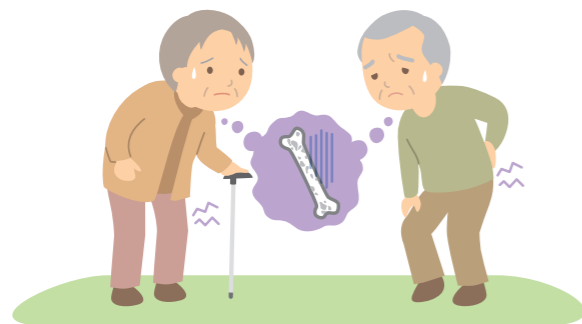
⑤ 紹介元への逆紹介は

結石治療終了後、尿路 (特に尿管) 狭窄が認められる方や積極治療対象でない小結石が残存している方は当外来で定期経過観察・治療することになります。

再発予防の内服治療が必要な方 (高尿酸血症等) は投薬を紹介元へお願いし、結石の経過観察を半年から 1 年おき位の間隔で当外来で行います。



学病院の脊椎脊髄病専門医による脊椎脊髄専門の外来診療をしております。また通常外来でも脊椎病変の診察はしており、内服等で症状の改善されない患者様がいらっしゃいましたら、当院に紹介をよろしくお願ひ申し上げます。



● 脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術